

郡山市制施行100周年記念「防災講演会」について



2024年10月 月例市長記者会見
資料 6 総務部防災危機管理課
建設部河川課

1 趣旨等

郡山市制施行100周年にあたり、行政による災害対策はもとより、市民一人ひとりが「自らの命は自らが守る」意識を持って、防災・減災に向けた具体的な取組を進め、地域における防災力及び市民の防災意識の向上を図ることを目的に、「郡山市制施行100周年記念防災講演会」を開催する。

2 開催概要

- (1) 講 師 片田敏孝 東京大学大学院 情報学環 特任教授
・講演タイトル 「想定を超える災害にどう向かい合えばいいのか ～危機に主体的に備えるために～」
- (2) 開催日時 11月10日（日）午後1時30分開演（質疑含め2時間程度）
- (3) 会 場 郡山市役所特別会議室（本庁舎2階）※オンライン（ユーチューブ・ライン）により同時配信等を行う
（市内にお住まいの方や通勤・通学している方はどなたでも視聴可能。配信した動画は、11月11日（月）から1カ月程度配信予定）
- (4) 会場参加者（予定） 約200名



オンラインQ R

3 講演会内容

■これまでの郡山市の災害の振り返り

- ・1986年8月5日の集中豪雨水害（8.5水害）
- ・1998年8月27日・28日の集中豪雨水害
- ・2011年3月11日の東日本大震災
- ・令和元年東日本台風 など

■近年の災害

- ・線状降水帯による水害 ・令和6年能登半島地震など

■災害への備え

- 【自助】：市民一人ひとりが求められる災害対策とそのあり方
⇒「自らの命は自らが守る」意識の啓発と、防災・減災に向けた有効かつ具体的取組の事例紹介とそのあり方
- 【共助】：自主防災組織等による災害対策の先進事例
- 【公助】：行政による災害対策の先進事例紹介とそのあり方



4 講師プロフィール

- 1990（平成2）年 豊橋技術科学大学大学院博士課程修了
- 1997（平成9）年 群馬大学工学部建設工学科 助教授
- 2005（平成17）年 群馬大学工学部建設工学科 教授
- 2010（平成22）年 群馬大学広域首都圏防災研究センター
センター長

- 2010（平成22）年11月～ 静岡大学 客員教授
- 2017（平成29）年 東京大学大学院情報学環 特任教授 群馬大学 名誉教授
- 2019（令和元）年10月～2023（令和5）年11月 日本災害情報学会 会長



※1998（平成10）年8月末豪雨災害における郡山市避難者の避難行動データを基に、全国初のハザードマップの実証的研究を実施するなど、本市の状況について熟知。片田先生と本市との関わり等については、別紙1を参照。

※1998（平成10）年8月末豪雨災害については、別紙2を参照。

1 郡山市洪水ハザードマップの改訂の経緯（水防法第15条）

○1997(平成9)年12月作成 【郡山市洪水避難地図（洪水ハザードマップ）】
昭和61年8月5日台風10号（8.5水害）による被害を受けて作成

●2000(平成12)年3月改訂 【郡山市洪水避難地図（洪水ハザードマップ）改訂版】
平成10年8月末の豪雨被害を踏まえた改訂

○2013(平成25)年5月改訂 【洪水ハザードマップ、内水ハザードマップ】
内水ハザードマップの追加

○2020(令和2)年4月改訂 【洪水ハザードマップ】
令和元年東日本台風の被害を踏まえた改訂
阿武隈川、逢瀬川の洪水浸水想定区域を掲載

○2022(令和4)年4月改訂
県管理河川の五百川、藤田川、谷田川及び笹原川の洪水浸水想定区域を掲載

○2024(令和6)年4月改訂
県管理河川の桜川、天神川及び八島川の洪水浸水想定区域を掲載



【8.5水害（水門町付近）】



【1997年12月作成版】



【2024年4月改訂版】

2 片田敏孝先生と郡山市との関わり

片田敏孝先生による
平成10年8月末豪雨災害における郡山市民の避難行動の実態調査

1998（平成10）年9月 調査実施

- 対象地域 市内阿武隈川・逢瀬川流域
- 調査方法 訪問配布、郵送回収
- 調査票配布数 2000
- 有効回答数 747（回収率 37.4%）



【調査結果（抜粋）】

ハザードマップを見た住民は、見ていない住民より
平均1時間早く避難開始

⇒ハザードマップにより迅速な避難行動が促されたことなど
日本で初めてハザードマップの具体的な効果が示された



2000年3月ハザードマップ改訂への参画

「郡山市洪水ハザードマップ
検討委員会」の委員としてハ
ザードマップの改訂に尽力



【2000年3月改訂版】

1 災害の概要

1998（平成10）年は、梅雨明けがないまま東北地方に前線が停滞し、台風第4号が日本の南海上をゆっくりと北上し、台風の接近に伴い温かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となり、8月26日夜半から県内各地に集中豪雨が発生。

降り始めからの総雨量は、長沼（現須賀川市）で688mm、白河で656mmに達するなど中通り南部を中心に記録的な大雨となり、福島県西郷村の真船観測所では、降り始めからの雨量が1,267mmに達し、阿武隈川の氾濫をもたらすなど、阿武隈川流域に多大な被害をもたらしました。

本市においても、阿武隈川を中心に市内の各河川とも増水し、内水等による工場や住居の浸水、道路冠水、河川護岸崩壊、土砂災害等が発生しました。

この災害は、8月27日と8月29日から30日にかけての2度にわたる豪雨により、阿武隈川の水位の上昇に伴うピークが2回あり、郡山市において、一度避難情報が解除された地域に、再び避難情報を発令しています。

主な浸水地域	気象状況等		主な被害状況
	郡山市降水量	最高水位	
阿武隈川沿川	総雨量 351mm		半壊2件、一部損壊11件
	8月27日 101mm	阿武隈川 8.42m	床上浸水394件、
	8月28日 38mm	逢瀬川 3.35m	床下浸水523件
	8月29日 97mm	谷田川 3.70m	非住家浸水299件
	8月30日 76mm		避難所開設数62施設
	時間最大雨量 19mm		最大避難者数5,119人



平成10年8月末豪雨による水害（南川付近）

2 本市の対応

本市では、1996（平成8）年に全面的な見直しを行った地域防災計画に基づき、全庁的な取り組みのもと、災害応急対策を実施。

防災行政無線やふれあいファックス、インターネットを活用した市ウェブサイトなどにより、情報を多重に伝達したことや浸水の予想される地区の危険個所を表示した「洪水ハザードマップ」の事前配布が、迅速な避難活動を行なううえで、大きな力を発揮した。



（阿久津橋付近）



（小原田付近）